

【経歴と業績】

河合幹雄 経歴と業績

河合 幹雄

【経歴】

1960年天理生まれ

1978年3月 奈良県立奈良高校卒業

1982年3月 京都大学理学部生物系卒業（自然人類学専攻）

1982年4月－1984年3月 京都大学大学院文学部聴講生

1984年－1986年 京都大学大学院法学研究科 基礎法学専攻 修士課程

1986年4月 京都大学大学院法学研究科 基礎法学専攻 博士後期課程 入学

1986年9月 京都大学大学院法学研究科 基礎法学専攻 博士後期課程 退学

1986年9月－1988年10月 パリ第2大学留学

1988年1月－1988年9月 CNRS（フランス国立科学研究所）IRJC（比較法研究所）助手

1988年 京都大学大学院法学研究科 基礎法学専攻 博士後期課程 復学

1991年 京都大学大学院法学研究科 基礎法学専攻 博士後期課程 満期退学

1991年4月－1993年3月 京都大学法学部助手

1992年10月－1999年9月 パリ第10大学法学博士論文準備生

1994年－1998年 桐蔭学園横浜大学法学部講師

1998年－2004年 桐蔭学園横浜大学法学部助教授（2000年桐蔭横浜大学に改称）

2004年－2023年 桐蔭横浜大学法学部教授 桐蔭横浜大学法学研究科教授

2016年－2022年 桐蔭横浜大学副学長

2016 年 - 2023 年 学校法人桐蔭学園理事
1994 年 - 2006 年 國學院大學法学部非常勤講師
1997 年 - 2022 年 一橋大学法科大学院非常勤講師
2006 年 - 2014 年 警察大学校特別捜査幹部研修嘱託教員
2012 年 - 2022 年 早稲田大学法学部非常勤講師
2012 年 - 2023 年 日本法社会学会理事
2017 年 - 2023 年 日本犯罪社会学会理事
2013 年 - 2023 年 日本被害者学会理事
2012 年 - 2023 年 法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員
2012 年 - 2023 年 全国篤志面接委員連盟評議員
2013 年 - 2019 年 公益財団法人矯正協会 役員候補者審議委員会委員
2019 年 - 2023 年 公益財団法人矯正協会 評議員
2017 年 - 2023 年 AV 人権倫理機構理事
2012 年 - 2023 年 一般財団法人河合隼雄財団評議員
実在児童の人権擁護基金監事
元刑事施設視察委員長
元 EMA モバイルコンテンツ審査・運用監視機構基準策定委員会委員

2009 年 - 2011 年 日本学術会議連携会員 (特任)
(第 21 期 2009 年 2 月 26 日 - 2011 年 4 月 30 日、2010 年 6 月 11 日 - 2011 年 6 月 25 日) (第 22 期 2011 年 7 月 7 日 - 2014 年 9 月 30 日)
2020 年 - 2023 年 日本学術会議連携会員
(第 25 期 2020 年 10 月 1 日 - 2023 年 9 月 30 日) (第 26 期 2023 年 10 月 1 日 - 2023 年 11 月 26 日)

【著書・翻訳】

1. 河合幹雄『もしも刑務所に入ったら——「日本一刑務所に入った男」による禁断解説』ワニブックス PLUS 新書、ワニブックス、2019 年 12 月
2. 河合幹雄監修『殺人の歴史』ベルナール・ウダン著、遠藤ゆかり訳、創元社 2012 年 3 月
3. 河合幹雄『終身刑の死角』洋泉社新書、洋泉社、2009 年 9 月

4. 河合幹雄『日本の殺人』ちくま新書、筑摩書店、2009年6月
5. 河合幹雄『安全神話崩壊のパラドックス——治安の法社会学』岩波書店、2004年8月
日本法社会学会 第六回奨励賞受賞、2005年5月
6. 河合幹雄訳『司法が活躍する民主主義——司法介入の急増とフランス国家のゆくえ』アントワヌ・ガラボン著、勁草書房、2002年2月
7. 井上達夫・河合幹雄共編（共編著）『体制改革としての司法改革——日本型意思決定システムの構造転換と司法の役割』信山社、2001年
河合幹雄「社会のルール化と司法の役割」189～229頁
8. 河合幹雄訳『ユングと共時性』イラ・プロゴフ著、河合隼雄訳、創元社、1987年9月
9. 河合幹雄訳『ユングと共時性』創元アーカイブス、イラ・プロゴフ著、河合隼雄訳、創元社、2024年1月20日

【分担執筆】

1. 河合幹雄「社会学からみた病理」265～273頁
『ストーキングの現状と対策』守山 正編、成文堂、2019年3月20日
2. 河合幹雄「“安全神話”の崩壊と法令遵守の厳格化」54～57頁
『激動の平成史』洋泉社、2017年12月26日
3. 河合幹雄「調査研究対象との接近と適切な距離—最良の方法とは最高の結果が得られる方法」3～23頁
『法と社会研究 第3号』太田勝造、佐藤岩夫編、信山社、2017年12月15日
4. 河合幹雄「犯罪現象・犯罪統計」323～339頁
『ビギナーズ犯罪学』守山 正・小林寿一編、成文堂、2016年5月20日
5. 河合幹雄「世界で一番安全な国」60～70頁
『21世紀の日本最強論』文藝春秋編、文藝春秋、2015年4月20日
6. 河合幹雄「岩波講座 現代法の動態【5】法の変動の担い手」203～222頁
『裁判員制度と市民の変容』長谷部恭男、佐伯仁志、荒木尚志、道垣内弘人、大村敦志、亀本 祥編、岩波書店、2015年1月29日
7. 河合幹雄「デュトゥルー事件と児童性愛者ネットワーク——幻想を生んだ背景と役割」115～120頁

- 『改正児童ポルノ禁止法を考える』園田 寿、曾我部真裕編、日本評論社
2014 年 10 月 25 日
8. 河合幹雄「刑事施設視察委員制度と市民の司法参加」115～133 頁
『法の観察 法と社会の批判的再構築に向けて』和田仁孝、櫻村志郎、
阿部昌樹、船越資晶編、法律文化社、2014 年 7 月 20 日
9. 河合幹雄「第 11 講 暴力団にかかわる正義と公正—法社会学的視点から—」225～240 頁
『法の基層と展開 法学部教育の可能性』桐蔭法学研究会編、信山社、
2014 年 4 月 15 日
10. 河合幹雄他「犯罪に対する不安は治まるのか」561 頁～563 頁
『これからどうする 未来のつくり方』岩波書店、2013 年 6 月 12 日
11. 河合幹雄他「第二章 法と社会システム」13 頁～22 頁
『社会理論と社会システム』学文社、2012 年 3 月 30 日
12. 河合幹雄他「第 11 章 犯罪被害者と人権」217 頁～237 頁
『講座 人権論の再定位 2 人権の主体』愛敬浩二編、法律文化社、
2010 年 11 月 30 日
13. 河合幹雄他「第 I 部 訴訟当事者の社会的属性／第 1 章 日本の訴訟当
事者の特性 2004 年民事訴訟行動調査報告から」3 頁～19 頁
『現代日本の紛争処理と民事司法 ③ 裁判経験と訴訟行動』ダニエル・
H. フット、太田勝造 編、東京大学出版会、2010 年 9 月 28 日
14. 河合幹雄他「犯罪学的に見れば、この事件は一級に凶悪とは言えない」
洋泉社MOOK 『アキバ通り魔事件をどう読むか!?』洋泉社、2008 年 8
月 29 日 87～91 頁
15. 河合幹雄「第 27 章 フランス」429～436 頁
細井洋子、西村春夫、櫻村志郎、辰野文理、編著
『修復的司法の総合的研究—刑罰を超え新たな正義を求めて—』
風間書房、2006 年 1 月
16. 河合幹雄、辰野文理、杉原弘泰、紀藤正樹、中山善房共著
『刑事裁判を見る目に確かさを』
「犯罪統計から」135～170 頁、成文堂、2005 年 1 月
17. 河合幹雄「修復的司法—理想主義からの揺らぎ—」319～333 頁

- 『法社会学の可能性』和田仁孝・檜村志郎・阿部昌樹編著
法律文化社、2004年8月
18. 河合幹雄「法イメージの国際比較——東洋対西洋から日米中三極へ」84
～108頁
『人間の心と法』河合隼雄・加藤雅信編著、有斐閣、2003年9月
19. 河合幹雄「たばこと訴訟の社会統制」212～223頁
『たばこ訴訟の法社会学——現代の法と裁判の解説に向けて』棚瀬孝雄編
世界思想社 2000
20. 河合幹雄「アウトローの法社会学——正義実現の非法的基礎」187～
207頁
『法の臨海 [II] 秩序像の転換』井上達夫、島津 格、松浦好治編
東京大学出版会 1999
21. 河合幹雄「交通事故被害者損害賠償の法理と道徳——フランスの制度変
遷の理解を通して」241～256頁
ジュリスト No.987 1991年10月1日 92～97頁 再録
『現代不法行為法』棚瀬孝雄編、有斐閣、1994
22. 河合幹雄「逸脱と統制」323～345頁
『現代法社会学入門』棚瀬孝雄編、1994、法律文化社

【論文】

1. 「批判噴出の「学術会議問題」、一番深刻な問題は「ブレインの不在」だ」
『現代ビジネス』講談社、2020年12月4日
2. 「検察は安倍首相を逮捕しない…「検察庁法改正」の根本的問題と今後
これは疑獄事件的一幕だ」
『現代ビジネス』講談社、2020年5月21日
3. 「際立つ日本の特殊性：ユニークな歴史・社会が背景に 明らかな欠点は
「えん罪生み出すリスク」」
nippon.com 2020年5月14日
4. 「コロナ危機で「受刑者釈放」…いま世界で起きている現実 感染症と刑
務所をめぐる論点」
『現代ビジネス』講談社、2020年3月31日

5. 「平成 30 年間の刑事政策と社会変化『令和元年版犯罪白書』を読む」16
～ 25 頁
『罪と罰』第 57 卷 1 号、2019 年 12 月
6. 「「表現の不自由展」中止で「平和の少女像」が有名になったという現実
テロ予告への対応と表現の自由」
『現代ビジネス』講談社、2019 年 8 月 10 日
7. 「6361 本の作品を配信停止…「AV 出演強要問題」のその後」
『現代ビジネス』講談社、2019 年 7 月 16 日
8. 「逃走者が多いほど、治安が悪い？世界の刑事政策「驚きの常識」」
『現代ビジネス』講談社、2018 年 5 月 10 日
9. 「アダルトビデオ業界で何が起きているか？「AV 女優」の人権・権利を
守る取り組み」
nippon.com、2018 年 4 月 5 日
10. 「“AV 出演強要”何が問題だったのか？有識者委員会メンバーが明かす
— (上) 女優たちが本当に望んでいたこと」
「“AV 出演強要”何が問題だったのか？有識者委員会メンバーが明かす—
(下) なんと総ギヤラの 2%という事」
『現代ビジネス』講談社、2017 年 12 月 28 日、29 日
11. 「司法取引導入と司法の文化 —現場の実態は変わるのか」52 ～ 56 頁
『法学セミナー 2018 年 1 月号 通巻 756 号』日本評論社、2017 年 12 月 12 日
12. 「警察の“予算ルール”の重大な変化は、国民監視強化を意味するの
か — “捜査”よりも“監視”に重点ってこと…？」
『現代ビジネス』講談社、2017 年 8 月 4 日
13. 「少年非行激減の刑事政策以外の要因を探る」26 ～ 33 頁
『青少年問題』第 663 号、2016 年 6 月 25 日
14. 「刑事政策は右傾化しているのか」81 ～ 84 頁
『罪と罰』第 50 卷 4 号、2013 年 9 月
15. 「振り込め詐欺の社会的分析」
『被害者学研究第 23 号』日本被害者学会編、129 ～ 136 頁、2013 年 3 月
16. 「暴力団排除条例の本丸」
『都市問題』103 号 69 頁～ 76 頁、2012 年 10 月 1 日

17. 「日本における強盗防犯の成功」14～19頁
『青少年問題』第646号、2012年4月1日
18. 「日本の死刑制度には民主主義の前提が欠如している」
nippon.com、2012年2月13日
19. 「治安と不安のポリティックス」131～157頁
『政治の発見7守る 境界線とセキュリティの政治学』責任編集、杉田
敦、風行社、2011年6月30日
20. 「ネット犯罪の現状と課題」32頁～50頁
『犯罪と非行』第168号2011年5月27日
21. 「法学教育の見直しとエリートの役割変化」26頁～30頁
『學士會会報』第888号、2011年5月1日
22. 「司法取引と日本社会・文化との相性」381頁～390頁
日本刑法学会『刑法雑誌』第50巻、第3号、2011年3月10日
23. 「マンガ表現の規制強化を問う」95頁～103頁
『世界』2011年1月号、岩波書店、2010年12・・・日
24. 「講座 人権論の再定位2 人権の主体 愛敬浩二編」217頁～237頁
第11章 犯罪被害者と人権、2010年11月30日
25. 「法的解決の問題点 法社会学の視点から」6～9頁
『法学セミナー 基礎法学で世界を知る』2010年10月号、第55巻10号
通巻670号、日本評論社、2010年10月1日
26. 「世論調査と刑事政策 誰に何を説明すればよいか」14頁～23頁
『刑政』2010年9月号、通巻1419号、矯正協会、2010年9月1日
27. 「刑事司法の大転換—企画趣旨説明」
『刑事司法の大転換 法社会学第72号』日本法社会学会編、有斐閣、1～
5頁、2010年3月16日
28. 「Characteristics of Japanese Litigants -Analysis fo questionnaire sur-
vey -」
『名城法学』第58巻第3号、名城大学法学会、136～147頁、2010年3月1日
29. Daniel FOOTE, Mikio KAWAI, Akira MORIYA, Shunsuke KAKI-
CHI, Yuriko KAMINAGA, Yasuhiro WADA, Tomohiko MAEDA, Shozo
OTA

「Attitude, Evaluation, and Decision-Making by Their lawyers --Findings from the Nationwide Surveys (part1 of 2)」

『名城法学』第 58 卷第 3 号、名城大学法学会、148～158 頁、2010 年 3 月 1 日

30. 「治安の法社会学から見た都市・地域の将来像」

『都市計画』282 Vol.58/No.6 日本都市計画学会、23～26 頁、2009 年 12 月 25 日

31. 「周りの力で更生に成功 日本における非行少年を諸外国と比較して」

『世界の児童と母性 特集：少年法改正と子どもの未来』VOL.67、2009 年 10 月号、50～53 頁、2009 年 10 月 1 日

32. 「証拠収集の容易化と訴訟社会—タブーの消滅と IT 社会の到来を生かす—」

『小島武司先生古希祝賀＜続＞権利実効化のための法政策と司法改革』1013～1024 頁、2009 年 9 月 30 日

33. 「公訴時効廃止は被害者のためになるのか」

『世界』2009 年 10 月号 no.796、岩波書店、57～65 頁、2009 年 9 月 8 日

34. 「社会的観点から見た犯罪被害者」

『更生保護』平成 20 年 12 月号 59 卷 12 号、特集「犯罪被害」、日本更生保護協会 38～42 頁、2008 年 12 月 1 日

35. 「再非行少年と再非行でない非行少年」

『月刊 少年育成』2008 年 6 月号通巻 627 号、特集「増えつづける再非行」大阪少年補導協会、8～13・□、2008 年 5 月 20 日

36. 「日本の犯罪状況—統計を読み解く」

『ケース研究』295 号、家庭事件研究会 29～62 頁、2008 年 5 月

37. 「KEY WORD PFI 刑務所」

『法学教室』2008 年 4 月号、通巻 331 号、有斐閣、2～3 頁、2008 年 4 月

39. 「裁判員制度は日本の民主主義を変える可能性を持っている—頼れない官と向き合う個人」

『論座』2007 年 10 月号、通巻 149 号、朝日新聞社、87～91 頁、2007 年 10 月

40. 「被害者のことを考える余裕」

『刑政』通巻 1384 号平成 19 年 10 月号、矯正協会、88～89 頁、2007 年 10 月

41. 「日本の治安は悪化しているのか」

『公明』2007 年 8 月号、特集「定説」を疑う、通巻 20 号、公明党機関誌

委員会、24～29頁、2007年8月

42. 「長期自由刑とは何か」

『刑政』通巻1380号平成19年6月号、矯正協会、98～99頁、2007年6月

43. 「陪審制度導入の影響—アメリカの陪審を見学して」

『刑政』通巻1376号平成19年2月号、矯正協会、160～161頁、2007年2月

44. 「動植物虐待と矯正—自然とのふれあい」

『刑政』通巻1372号平成18年10月号、矯正協会、158～159頁、2006年

45. 「子どもが被害者になる犯罪の現状」

『児童心理』1No.8445号、2006年7月号、金子書房、107～113頁、2006年

46. 「外国人犯罪のせいで治安は悪化しない」

『中央公論』1465号第121年第6号平成18年6月号、中央公論、229～237頁、2006年

47. 「先輩後輩関係の機能」

『刑政』通巻1367号平成18年6月号、矯正協会、142～143頁、2006年6月

48. 「規律のサジかげん」

『刑政』通巻1363号平成18年2月号、矯正協会、198～199頁、2006年2月

49. 「治安が『あぶない』は『あぶない』」

『en』（メルマガ）

2005年12月号（通巻第38号）財団法人塩事業センター、2005年

50. 「都市と監視社会」

『TASC monthly』No.359 2005.11、たばこ総合研究センター、4～9頁、2005年

51. 「犯罪統計の信頼性と透明性」

『学術の動向』通巻115号2005年10月、日本学術協・□財団、12～15頁
2005年

52. 「体罰反対は世界的傾向」

『刑政』通巻1359号平成17年10月号、矯正協会、171～172頁、2005年

53. 河合幹雄、藤本亮、野口裕之、太田勝造

「日本人の法意識 — アメリカ・中国との対比から」

『ジュリスト』NO.1297 2005年9月15日号、有斐閣、53～62頁、2005年

54. 「犯罪者の実像から考える「安心できる街」の再構築」
『地方自治職員研修 特集 子供が危ない!』第 38 卷 No6 通巻 528 号
2005 年 6 月号、24～26 頁、公職研、2005 年
55. 「地域社会の治安を守る——安全神話崩壊後の共同体再生」
『Insight』(メルマガ <http://www.kepco.co.jp/insight/content/column/column073.html>) 2005 年 2 月 1 日、第 73 号
関西電力株式会社 地域共生・広報室、広報宣伝グループ
56. 「『日・米・中法意識比較研究』調査基本報告書」
(共同執筆) 法意識国際比較研究会、河合幹雄、藤本亮、ダニエル・H・フット、加藤雅信、野口裕之、岡田幸宏、太田勝造、菅原郁夫、高見澤磨、マイケル・K・ヤング
『名古屋大学法政論集』第 205 号 (2004 年 12 月号) 1～51 頁、2004 年
57. 「治安の悪化は真実か：犯罪統計の精査を」
『選択』2004 年 5 月号、選択出版、108～109 頁、2004 年
58. 「精神的回復力の源泉について 西村先生に捧ぐ」
『行雲流水 西村春夫先生古希祝賀自由小品集』西村春夫先生古希祝賀自由小品集刊行委員会、2003 年 5 月 26 日、96～98 頁
59. 「犯罪情勢は悪化しているのか——暴力的色彩の強い犯罪の現状と動向」
『法律のひろば』2003 年 1 月号、ぎょうせい、4～10 頁、2003 年
60. 「『米国人の法意識』調査基本報告書」(共同執筆)
法意識国際比較研究会『名古屋大学法政論集』第 193 号 (2002 年 9 月号)
2002 年
61. 「犯罪被害者とメディア」
『P S I K O プシコ』2002 年 3 月号、vol.18 冬樹社、30～37 頁
62. 「日本人の法意識スケーリング」(共同執筆)
法意識国際比較研究会『名古屋大学法政論集』第 189 号 (2001 年 9 月号)
2001 年
63. 「Disclosure of Official Information and Japanese Traditional Method in Criminal Justice -- Reintegration without True Forgiveness」
The Role of the Judiciary in Changing Society, Japanese Association of Sociology of Law, pp.225-229, 2001.

64. 「近代理性的秩序の限界・偶然性の統制——犯罪被害者をめぐる制度改革の方向——」
『90年代日本社会の変動と諸改革 法社会学 第五十五号』102～116頁
2001年
65. 「『日本人の法意識』調査基本報告書」(共同執筆)
法意識国際比較研究会『名古屋大学法政論集』、第187号(2001年3月号)、
2001年
66. 「日本の被害者学と被害者運動の動向——人間性の回復——」
『犯罪社会学研究』第25号2000、141～147頁、2000年
67. 「『中国人の法意識』調査基本報告書」(共同執筆)
法意識国際比較研究会・中国社会科学院法学研究所日本法センター『名古屋大学法政論集』第180号(1999年12月号)1999年
68. 「フランスにおける被害者学の生成と発展」
『被害者学研究』1997第7号、日本被害者学会、55～66頁
69. 「フランス法社会学と司法インフレ」
世界の法社会学・2
『法律時報』19972月号、日本評論社、104～105頁
70. 「組織の逸脱行動と責任の帰属——国際比較——」加藤直隆、久保 貴
共同執筆
『犯罪社会学研究』1995 20 犯罪社会学会編、92～114頁
71. 「悪質商法の比較文化論——欧米との比較」
『悪質商法』1994 現代のエスプリ 8月号、至文堂、93～100頁
72. 「規範の創造、内面化と制度化——近親相姦禁忌と精神病を手掛かりとして」
『歴史と社会のなかの法』比較法史研究2、1993 未来社 所収、160～177頁
73. 「Les Avocats au Japon」
国際比較法制研究I ユリスブルデンティア、1990年、ミネルヴァ書房、
23～45頁
パリ第二大学法社会学DEA修得論文、20点満点で16点獲得(10点以上が合格)
(Memoire du DEA de la sociologie du droit et les relations sociales
de Universite de droit d'economie et de sciences sociales de Paris

Sous la direction de professeur A. Garapon, 1987-1988,
avec mention Très bien)

74. 「アメリカにおける被害者の権利運動 ——その主張と背景——」

その 1) 京都大学法学論叢 1989 年 8 月号 125 巻 5 号、62～84 頁

その 2) 京都大学法学論叢 1989 年 12 月号 126 巻 3 号、66～85 頁

【学会発表】

- ・ 討論者 河合幹雄 セッション 2-B 『エンフォースメント』 飯田 高
日本の犯罪の増減に影響を与える要因—窃盗の都道府県パネルデータ分析を
中心に—発表者 森 大輔 = 野村友和 = 武田芳樹
法と経済学会全国大会、2021 年 11 月 13 日、於 ZOOM
- ・ 招待報告 河合幹雄 KAWAI, Mikio 「Rule-of-law Development and Mod-
ernization of Regional Governance in Japan」 in the on-line International
Symposium on Rule-of-law Development and Modernization of Regional
Governance
Organized by Nanjing Normal University, School of Law (南京師範大学
法学院) on 31 Oct., 2020, Nanjing with software Zoom.
- ・ 報告 河合幹雄 KAWAI, Mikio 「Substantive Decision-Making in the
Ghosn Case and the Traditional Approach to Public Prosecution in Ja-
pan: A World Perspective」
Asian Law and Society association (ALSA) 4th Annual Meeting in
OSAKA, JAPAN December 12-15, 2019
- ・ 招待報告 河合幹雄 KAWAI, Mikio 「Japanese Style of Rule of Law in
the Field of the Death Penalty Occidental Appearance and Japanese
Practice.」 International Symposium on Social Governance and the De-
velopment of Rule-of-Law
Organizers:
Nanjing Normal University, School of Law (南京師範大学法学院)
Nanjing Normal University Institute for Chinese Legal Modernization
Studies
Jiangsu Collaborative Innovation Center for Development of Regional

Rule of Law

Jiangsu Rule-of-Law Development Research Institute of Nanjing Normal University

November 8-9, 2019, Nanjing

- ・河合幹雄 シンポジウム報告「被害者学理論構築の可能性」
日本被害者学会第30回学術大会、2019年6月22日、於 桐蔭横浜大学
- ・ミニシンポジウム⑧ 飯 考行
「刑事司法における市民参加の展開」
飯 考行「裁判員制度の導入と10年間の展開——理念と現実の相克」
堀内美穂「裁判員裁判と臨床心理学」
國井恒志「裁判員裁判における評議の工夫」
平山真理「検察審査会と強制起訴——起訴における市民参加は何を変えるか」
キャロル・ローソン「日本とオーストラリア首都特別地域の刑務所市民監視体制——塙の中からの声を通しての比較研究」
コメント：河合幹雄 2019年度日本法社会学会学術大会、2019年5月12日、
於 千葉大学
- ・「人々の刑事司法についての知識 2014年全国意識調査から」
○河合幹雄・葛野尋之（一橋大学）
木下麻奈子（同志社大学）・平山真理（白鷗大学）
久保秀雄（京都産業大学）・○木村正人（高千穂大学）
日本犯罪社会学会第42回、2015年11月21日、於 桐蔭横浜大学
- ・河合幹雄「死刑の象徴化と公判重視——犯罪実態と世論調査を踏まえた死刑論」
「死刑は刑罰たりうるか」開催責任者・司会 青山治城、
他報告者 一ノ瀬正樹 井田 良
2015年度日本法哲学学会学術大会・総会、2015年11月7日、於 沖縄国際大学
- ・河合幹雄コーディネーター「What Recognition Can Change Japanese People's Opinion about Penal Punishment?: Analysis of Opinion Survey in 2014 in Japan」
Mikio Kawai “Death penalty and false accusation in Japan”

2015 EALS TOKYO:The 4th East Asian Law & Society Conference (第 4 回東アジア法社会学会会議)

General Theme: The Role of Law in Bridging Chasms In and Among Asian Societies (東アジア諸国内・諸国間の亀裂を架橋する法の役割)

2015 年 8 月 5 日、於 早稲田大学

- ・ミニ・シンポジウム⑦「死刑と厳罰の意見はどうすれば変わるのか」
 - (1) 河合幹雄・葛野尋之(一橋大学)・木下麻奈子(同志社大学)・平山真理(白鷗大学)・久保秀雄(京都産業大学)・木村正人(高千穂大学)
「問題意識と経過」
 - (2) 河合幹雄・葛野尋之・木下麻奈子・平山真理・久保秀雄・木村正人
「全国意識調査の方法」
 - (3) 河合幹雄「冤罪と死刑制度に対する世論」
 - (4) 木村正人「無知にもとづく懲罰意識? : 死刑の世論と情報効果」
 - (5) 久保秀雄「刑罰意識を規定する功利主義的要因よ道徳的要因」

2015 日本法社会学会学術大会

2015 年 5 月 8 日～10 日、於 首都大学東京コーディネーター 河合幹雄
コメンテーター 葛野尋之・平山真理

- ・「刑事施設視察委員会の実情」
日本犯罪社会学会 2013 年 10 月 5 日～6 日、於 北海学園大学 講師 河合幹雄
コメンテーター 三島聡(大阪市立大学)・佐々木光明(神戸学院大学)
- ・河合幹雄「振り込め詐欺の社会的分析」
日本被害者学会第 23 回学術大会 2012 年 06 月 02 日、於 女性就業支援センター
- ・河合幹雄「日本における強盗防犯の成功の原因」
国際犯罪学会 第 16 回世界大会 <第 8 回公開シンポジウム> 現代日本の
犯罪発生率の低さを理解する 2011 年 8 月 5 日、於 神戸国際会議場 301 室
- ・河合幹雄「趣旨説明・問題提起」
日本犯罪社会学会第 7 回公開シンポジウム「有罪判決後も被告人の人生～
量刑のための知識」司会 細井洋子、他報告者 指宿 信、高橋康明、
小柳 武、生島 浩、2010 年 10 月 1 日、於 国士舘大学世田谷キャンパス
中央図書館棟地下多目的ホール

- ・河合幹雄「司法取引と日本社会・文化との相性」
刑法学会第 88 回大会 分科会「司法取引の理論的課題」司会 田口守一
他報告者 川出敏裕、宇藤 崇、宇川春彦、2010 年 6 月 5 日、於 東北大学
- ・河合幹雄「理論と社会変化の緊張関係の変容—フランスと日本の刑事司法
改革を念頭に」
「ミニシンポジウム④：変化する現代の法社会学理論」
コーディネーター兼報告 福井 康太、他報告者 船越資晶、櫻村志郎、
コメンテータ：長谷川晃 2010 年度日本法社会学会学術大会、
2010 年 5 月 8 日、於 同志社大学
- ・コーディネーター兼報告 河合幹雄「刑事司法の大転換」
「全体シンポジウム：刑事司法の主体を問う—検察・裁判所と市民参加—」
報告者：河合幹雄、ダニエル・フット、安岡崇志、伊東研祐、コメンテ
ーター 龍岡資晃、司会：四宮 啓、木下麻奈子
2009 年度日本法社会学会学術大会、2009 年 5 月 10 日、於 明治大学
- ・河合幹雄「訴訟が活発な業界と企業があるのか」
「ミニシンポジウム⑧：法化社会における紛争処理と民事司法—訴訟行動
調査班からの報告」ダニエル・フット代表 2009 年度日本法社会学会学術
大会、2009 年 5 月 10 日、於 明治大学
- ・コーディネーター兼司会 河合幹雄「ミニシンポジウム⑥：市民の司法参
加の歩み—検察審査会から裁判員制度へ—」
報告者：出口雄一、柳瀬 昇、藤田政博、コメンテーター：坂井一郎
2009 年度日本法社会学会学術大会、2009 年 5 月 9 日、於 明治大学
- ・コーディネーター兼司会 河合幹雄 (桐蔭横浜大学) ミニ・シンポジウム
A 「ネット上の犯罪—書き込みを中心に」
パネリスト 池内ひろ美 (東京家族ラボ) 岡村久道 (弁護士) 坂 明 (慶
応大学総合政策学部・元警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課長)
日本犯罪社会学会第 35 回学術大会 2008 年 10 月 18 日、於 専修大学
- ・報告 河合幹雄シンポジウム「ミニシンポジウム①「全国調査からみた民
事訴訟制度：利用者と代理人の意思決定と」
2008 年度日本法社会学会学術大会、2008 年 5 月 10 日、於 神戸大学
- ・河合幹雄 (桐蔭横浜大学) シンポジウム「日本社会の構造変化と犯罪・非

行の動向」

コーディネーター兼司会 宮澤節生 (青山学院大学)

コーディネーター 原田 豊 (科学警察研究所)

パネリスト 町村敬志 (一橋大学) 刈谷剛彦 (東京大学) 朴元奎 (北九州大学)

日本犯罪社会学会第 34 回学術大会、2007 年 10 月 21 日、於 龍谷大学

- ・コーディネーター兼司会 河合幹雄 ラウンドテーブル B 「裁判員は犯罪をどう見るのか」

話題提供者 河合幹雄 (桐蔭横浜大学) 北村隆憲 (東海大学)

日本犯罪社会学会第 34 回学術大会、2007 年 10 月 20 日、於 龍谷大学

- ・報告 河合幹雄 「The Japanese Cultural Pattern of the Reintegration of Criminals」

American Society of Criminology November 4, 2006 at Los Angeles

- ・招待報告 河合幹雄 「Severe Social Sanction and Criminal Justice in Japan」

Punishment & Society in East Asia : A Symposium held at the Claremont Hotel Berkeley, CA

Sponsored by Sage Journal Punishment & Society

Editors: Malcolm Feeley and Jonathan Simon

October 28 - 31, 2006

- ・コーディネーター兼司会 河合幹雄 「ミニ・シンポジウム A 「性犯罪者とその対策」

日本犯罪社会学会第 33 回大会、2006 年 10 月 22 日、於 中央大学

- ・コーディネーター兼司会 河合幹雄 「ミニシンポジウム：外国人犯罪」

日本法社会学会第 回大会、2006 年 5 月 14 日、於 関西学院大学

- ・シンポジウム

「非行の原因 理論、実証、そして政策へ」

コーディネーター所一彦、朴元奎、河合幹雄、谷岡一郎、司会 瀬川 晃

報告者 野田陽子、朴 元奎、小宮信夫、津富 宏、村上直之、河合幹雄

日本犯罪社会学会 第 32 回大会、2005 年 10 月 23 日、於 大阪商業大学

- ・シンポジウム

「契約観・訴訟観・法意識の国際比較——21 世紀の日本・法曹教育の基礎

を作るために」

第二報告：河合幹雄、藤本亮、野口裕之、太田勝造

「日本人の法意識 ——アメリカ・中国との対比から」

2005年日本私法学会、於九州大学

・シンポジウム

「若者の生きにくさと非行・犯罪—日本の非行・犯罪のゆくへと対策—」

司会：龍島秀広 シンポジスト 河合幹雄、田中康雄、村尾泰弘

日本犯罪心理学会 第43回大会、2005年8月21日、於北海道大学学術
交流会館

・ワークショップ「現代刑事政策における「外国人犯罪」の位相」

司会 佐々木光明 話題提供 河合幹雄 岡本英生 関谷聡介 中條晋一郎

第83回日本刑法学会大会、2005年6月19日、於北海道大学

・河合幹雄「ミニ・シンポジウムA 犯罪は増えているのか? : 犯罪統計の
からくり : 犯罪統計の正しい読み方」

日本犯罪社会学会第30回大会、2003年10月18日、於沖縄国際大学

・河合幹雄 (共同報告)

「調査報告：「20ヵ国契約意識比較調査」」

名古屋国際シンポジウム「法と社会の基本構造を探る—所有・契約・社会—」

2002年1月14日 愛知県産業貿易館本館5階国際会議場

法意識国際比較研究会 (代表：加藤雅信 マイケル・K・ヤング)、名古屋
弁護士会 主催

法務省、日本弁護士連合会、国際交流基金日米センター、日本法社会学会
、NHK名古屋放送局 朝日新聞社、名古屋テレビ、トヨタ自動車、社会
科学国際交流江草基金 後援

日本法社会学会関西研究支部 協賛

・河合幹雄 (共同報告)

「調査報告：「<日・米・中>三ヵ国法意識比較調査」」

東京国際シンポジウム「西洋社会の法と東洋社会の法—人はなぜ法を破る
のか、日米中の法意識調査から」

2002年1月12日、国際交流基金国際会議場

法意識国際比較研究会 (代表：加藤雅信 マイケル・K・ヤング)、国際交

流基金日米センター 主催

法務省、日本弁護士連合会、日本法社会学会、NHK、朝日新聞社、トヨタ自動車、社会科学国際交流江草基金 後援

日本法社会学会関東研究支部 協賛

・河合幹雄

「Disclosure of Official Information and Japanese Traditional Method in Criminal Justice -- Reintegration without True Forgiveness」

国際シンポジウム「変化する社会における司法の役割」、2001 年 6 月 9・10 日
法社会学会主催、於 学習院大学

・河合幹雄「日本の犯罪状況の変化—犯罪増加・凶悪化・安全神話の崩壊の検討—」

日本行動計量学会第 28 回大会、2000 年 10 月 7 日、於 東京大学駒場キャンパス

・河合幹雄、Joseph Sanders, Lee Hamilton、所 一彦、西村春夫、久保 貴、加藤直隆

「The Dimensions of Corporate Responsibility in Three Societies」

Annual Meeting Research Committee on Sociology of Law International Sociological Association 1995 於 東京大学法学部

・河合幹雄 所 一彦 西村春夫 久保 貴 加藤直隆 共同発表

「組織体の逸脱行動と責任の帰属——国際比較——」

日本犯罪社会学会 1994

・河合幹雄 所一彦 西村春夫 久保貴 加藤直隆 共同発表

「組織体の逸脱行動をめぐる責任の比較文化的研究」

日本法社会学会 1994

・河合幹雄「刑事司法における被害者の役割」

日本被害者学会第 2 回学術大会、

1991 年 06 月 29 日、於 中央大学駿河台記念館

【講演・シンポジウム】

・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」

矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第 53 回

2021 年 8 月 30 日動画収録 於 矯正研修所

講師 河合幹雄

- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」

矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第52回

2020年11月6日動画収録 於 矯正研修所

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所 2020年度 初任行政研修Fコース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2020年10月12日・16日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」

矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第51回

2019年12月23日、於 矯正研修所

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所 2019年度 初任行政研修Cコース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2019年5月27日・31日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

- ・「マイノリティー・変わり者と犯罪」

刑事政策意見交換会 2019年3月4日、於 法曹会館「富士の間」

講師 河合幹雄

- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」

矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第50回

2018年12月5日、於 矯正研修所

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成30年度 初任行政研修Aコース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2018年5月7日・11日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」
矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第 49 回
2017 年 10 月 3 日、於 矯正研修所
講師 河合幹雄
- ・「犯罪・治安対策」
人事院公務員研修所平成 29 年度 初任行政研修 B コース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）
2017 年 5 月 15 日・19 日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄
- ・「治安対策と社会」
平成 28 年度行政研修（課長補佐級）リーダーシップ研修 2016 年 10 月 31
日・11 月 2 日、於 人事院本院・公務員研修所
講師 河合幹雄
- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」
矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第 48 回
2016 年 9 月 6 日、於 矯正研修所
講師 河合幹雄
- ・「犯罪・治安対策」
人事院公務員研修所平成 28 年度 初任行政研修 B コース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）
2016 年 5 月 16 日・20 日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄
- ・「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」
矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第 47 回
2015 年 12 月 2 日、於 矯正研修所
講師 河合幹雄
- ・「犯罪・治安対策」
人事院公務員研修所平成 27 年度 初任行政研修 B コース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）
2015 年 5 月 18 日・22 日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄

- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第95期生研修講義、
2014年12月19日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
- ・「法社会学 犯罪統計と実態」
矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第46回
2014年11月07日、於 矯正研修所
講師 河合幹雄
- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第94期生研修講義、
2014年6月10日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
- ・「犯罪・治安対策」
人事院公務員研修所平成26年度 初任行政研修Dコース 政策課題研究：
基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）
2014年6月2日・6日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄
- ・「森に描かれた物語を求めてーゴリラと人が分かち合う物語ー」<河合準雄物語賞・学芸賞> 記念講演会 公開対談 小川洋子×山極寿一
2014年02月10日、於 紀伊国屋サザンシアター、
一般財団法人 河合準雄財団主催
- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第93期生研修講義、
2013年11月05日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
- ・「法社会学 犯罪統計と実態」
矯正研究所 任用研修課程高等科研修 第45回、2013年11月01日、於 矯正研修所

講師 河合幹雄

- ・「防犯における警察官の役割 伝統の再考」

福井県警察本部 2013 年 10 月 8 日、於 福井県警察本部 6 階大会議室

講師 河合幹雄

- ・「日本の司法改革：刑事司法の大転換」

東アジア司法改革国際学術シンポジウム、

2013 年 9 月 25 日、於 中国華僑大学法学院

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 25 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2013 年 6 月 03 日・07 日、於 人事院公務員研修所、

講師 河合幹雄

- ・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 92 期生研修講義、

2013 年 5 月 14 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「非行少年の現状と取り巻く環境」法社会学の視点から

東京家庭裁判所少年部家庭裁判所調査官研修、

2013 年 2 月 12 日、於 東京家庭裁判所研修所

講師 河合幹雄

- ・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 91 期生研修講義

2013 年 1 月 22 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「木嶋佳苗の研究」～裁判傍聴記『毒婦』著者、北原みのり氏と犯罪学者、河合幹雄（桐蔭横浜大学法学部長）が語る

桐蔭横浜大学 燦爛祭

2012 年 2012 年 9 月 22 日、於 桐蔭横浜大学法学部企画

講師 河合幹雄 (桐蔭横浜大学法学部長)

北原みのり (作家)

- ・「非行少年の環境変化は実像を変えたか」

平成 24 年度少年実務研究会

2012 年 9 月 20 日、於 司法研修所

講師 河合幹雄

- ・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 90 期生研修講義

2012 年 5 月 29 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「暴力団排除と表現規制」

自由人権協会 JCLU マス・メディア小委員会主催

2012 年 5 月 24 日、於 JCLU 会議室

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 24 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議 (犯罪・治安対策)

2012 年 5 月 21 日～ 25 日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

- ・「撮る」「書く」「話す」のいま—自主規制と公権力介入を考える—

日本ペンクラブ・専修大学社会科学研究所・共催 公開シンポジウム

パネリスト：

島田 (日本ビデオ倫理協会)

河合幹雄 (桐蔭横浜大学教授)

田原総一郎 (ジャーナリスト)

山本太郎 (俳優) —メッセージのみ—

2012 年 3 月 1 日、於 専修大学神田校舎 731 教室 (7 号館)

パネリスト：河合幹雄

- ・「安全神話崩壊のパラドックス」

パルテノン多摩連続講演 第 15 回 リスク社会の〈神話〉を問い直す

2012 年 2 月 11 日、於 パルテノン多摩 4 階 第 1 会議室

講師 河合幹雄

- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 89 期生研修講義

2012 年 1 月 6 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「裁判員と被害者のこころ 弁護人が法廷で取るべき態度」

第二東京弁護士会裁判員裁判実施推進センター主催「犯罪と臨床心理」

2011 年 11 月 21 日、於 弁護士会館 第二東京弁護士会会議室 1003 号室

講師 河合幹雄

- ・「適度な用心こそ健全な社会を築く 犯罪防止は病気予防と同じか」

財団法人日本健康アカデミー 心の健康と病気予防を考える? 社会学見地より?

2011 年 11 月 11 日、於 東京ウィメンズプラザ第 2 会議室 B

講師 河合幹雄

- ・「科学リテラシーと現代社会～理の共有～」

国際基督教大学・東京理科大学大学院協力サロン サイエンス・カフェ

2011 年 9 月 8 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 88 期生研修講義

2011 年 5 月 31 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 23 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2011 年 5 月 9 日～13 日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

- ・「無期刑対象者について」

平成 22 年度保護司特別研修

- 2011年3月2日、於 横浜保護観察所
講師 河合幹雄
- ・「法社会学、犯罪学から見る「青少年とインターネット」」
モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 EMA セミナー
2010年10月19日、於 EMA 事務局 会議室
講師 河合幹雄
 - ・「安心・安全な社会を築くためには」
青葉六大学講座第五回
2010年11月13日、於 桐蔭横浜大学メモリアムアカデミウム
講師 河合幹雄
 - ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第87期生研修講義
2010年11月2日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
 - ・「若者の怒りは爆発するのか—共同体と世代」
矯正茶話会
2010年9月17日、於 法曹会館「富士の間」
講師 河合幹雄
 - ・「法社会学、犯罪学から見る「青少年とインターネット」」
モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 EMA セミナー
2010年11月19日、於 EMA 事務局 会議室
講師 河合幹雄
 - ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第86期生研修講義
2010年6月1日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
 - ・「法社会学の観点から見た都条例改正案
「どうする！？どうなる？ 都条例—非実在青少年とケータイ規制を考える」
主催：東京都青少年健全育成条例を考える会

2010 年 5 月 17 日、於 豊島公会堂

講師 河合幹雄

・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 22 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2010 年 5 月 17 日・5 月 21 日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

・「基調報告：議論と熟考がほしかった公訴時効廃止」

被害者と司法を考える会主催「公訴時効について、いま考える事」

2010 年 5 月 1 日、於 青山学院大学総研ビル 3 階会議室

講師 河合幹雄

・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 85 期生研修講義

2009 年 10 月 27 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

・「裁判員制度の意義」

平成 20 年度 川崎市教育委員会 平和・人権学習「裁判員制度を考える」

2009 年 10 月 23 日、於 幸市民館

講師 河合幹雄

・「治安の現状と地域社会」

神奈川県安全防災局安全・安心まちづくり推進課主催「平成 21 年度安全・安心まちづくり公開講座（リーダー養成講座）」

2009 年 9 月 9 日、於 かながわ県民センター

講師 河合幹雄

・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 84 期生研修講義

2009 年 6 月 16 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 21 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2009 年 6 月 1 日・6 月 5 日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄

- ・「非行少年の実態と少年達の環境 ～変化したのは何か～」

神奈川県公立中学校長会総会講演

2009 年 2 月 26 日、於 川崎市教職員互助会館とどろき
講師 河合幹雄

- ・「都市計画と安全 法社会学からの期待」

都市防犯研究会（日本都市計画学会）

2008 年 12 月 11 日、於 都市計画協会会議室

講師 河合幹雄

- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 83 期生研修講義

2008 年 10 月 30 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

- ・「治安の現状と地域社会」

神奈川県安全・安心まちづくりセンター主催 平成二十年度安全・安心まちづくりリーダー養成講座

2008 年 8 月 23 日、於 横浜市社会福祉総合センター

講師 河合幹雄

- ・「犯罪統計の分析と犯罪情勢の予測」

法務総合研修所 第 28 回ベトナム法整備支援研修

2008 年 7 月 1 日、於 法務総合研修所

講師 河合幹雄

- ・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 82 期生研修講義

2008 年 6 月 6 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

・「犯罪・治安対策」

人事院公務員研修所平成 20 年度 初任行政研修 政策課題研究：基調講演・全体討議（犯罪・治安対策）

2008 年 5 月 19 日・5 月 23 日、於 人事院公務員研修所

講師 河合幹雄

・「少年審判廷を検証！」

被害者と司法を考える会主催

2008 年 4 月 29 日、於 青山学院大学総研ビル 9 階 16 会議室

講師 河合幹雄

・「裁判員制度は大丈夫なのか」

桐蔭横浜大学現代 G P 公開講座

2008 年 2 月 8 日、於 新横浜プリンスホテル千鳥の間

講師 河合幹雄

・「青少年犯罪の今を考える～安全神話崩壊のパラドックス～」

独立行政法人国立青少年教育振興機構主催 平成 19 年度全国青少年相談研究集会 特別講演

2007 年 12 月 5 日、於 国立オリンピック記念青少年総合センター

講師 河合幹雄

・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 81 期生研修講義

2007 年 11 月 15 日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所

講師 河合幹雄

・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 80 期生研修講義

2007 年 6 月 12 日 於 警察大学校特別捜・ク幹部研修所

講師 河合幹雄

・「大局の見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」

特別捜査幹部研修所第 79 期生研修講義

- 2006年11月15日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
- ・「裁判員制度の導入で社会はどう変わるか」
法学部現代 GP プログラム「裁判員候補者たる地域市民の法教育支援」
2006年9月24日、於 桐蔭横浜大学法学部 J204 教室
講師：河合幹雄
 - ・「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第78期生研修講義
2006年6月2日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
 - ・「治安の現状を理解する」
人事院公務員研修所平成18年度 初任行政研修 政策課題研究・関連講義 (犯罪・治安対策)
2006年5月29日、於 人事院公務員研修所
講師 河合幹雄
 - ・「子供の安全に対する不安」
平成18年度 桐蔭横浜大学法学部社会人大学講座 テーマ：「時代変化と不安」
5月20日、於 桐蔭横浜大学法学部
講師 河合幹雄
 - ・「国民保護計画の目的と地方自治体の役割」
新潟県国民保護フォーラム
2006年3月18日、於 新潟グランドホテル
コーディネーター：森本 敏 パネリスト：河合幹雄、浜谷英博、斎藤隆景、斎藤喜和、川上真紀子、鶴巻嗣雄
 - ・「刑事政策における日本の伝統的手法」
特別捜査幹部研修所第77期生研修講義
2005年12月16日、於 警察大学校特別捜査幹部研修所
講師 河合幹雄
 - ・「被害者支援における制度上の課題」
「被災者・被害者支援のあり方を考える」第3分科会「犯罪被害者への支援」

主催 立正大学心理臨床センター第 6 回カウンセリングセミナー
共済：関東ストレスマネジメント研究会 後援：品川区教育委員会
2005 年 12 月 11 日、於 立正大学大崎キャンパス

講師 河合幹雄

・「日本の治安状況」

情報セキュリティ大学院大学「情報セキュリティ特論」

2005 年 10 月 26 日、於 情報セキュリティ大学院大学

講師 河合幹雄

・「日本の安全神話は崩壊したのか—犯罪の急増・凶悪化の真実は」

2005 年 10 月第 4 週 講演カセット POWER LECTURE 日曆会

講師 河合幹雄

・「日本の治安状況—犯罪率—」

中央大学大学院法学研究科「特殊講義 I (日本法制 2010 年)」

2005 年 7 月 30 日、於 中央大学

講師 河合幹雄

・「日本の治安の現状」

民主党 治安・防犯WT主催

2005 年 3 月 18 日、於 参議院会館

講師 河合幹雄

・「外国人犯罪と日本の治安」

「21 世紀を考える会」(日本アイ・ビー・エム社) 第 102 回研究会

2004 年 12 月 3 日、於 六本木プリンスホテル

講師 河合幹雄

・「日本の犯罪状況 ～増加・凶悪化・安全神話～」

調布市主催 北の杜講座パートⅡ 第 1 回

2004 年 11 月 13 日、於 調布市北部公民館

講師 河合幹雄

・「～刑事裁判を考える～第五回 犯罪統計から」

「国士館大学公開講座 法律」

2004 年 5 月 22 日、於 国士館大学生涯学習センター

講師 河合幹雄

- ・「今期待される消費者像—悪質商法の法社会学」
主催 神奈川県平塚消費生活センター「暮らしの大学」
2003年3月5日、於 神奈川県平塚合同庁舎
講師 河合幹雄
- ・「諸外国と比較した日本人の人権擁護」
平成14年度人権問題講演会
主催 綾瀬市・綾瀬市教育委員会・神奈川県
2002年12月20日、於 綾瀬市文化会館小ホール
講師 河合幹雄
- ・「<体制改革としての司法改革>を考える」
北海道大学大学院法学研究科付属 高等法政教育研究センター・公開シンポジウム
2001年10月22日、於 北海道大学百年記念会館会議室
パネリスト 井上達夫、河合幹雄、川本隆史、山口二郎
コーディネーター長谷川晃

【新聞掲載】

- ・河合幹雄「避難路複数確保を」
記事内コメント「北新地放火 書類送検 26人殺害、死亡の容疑者」内
読売新聞 2022年3月17日
- ・インタビュー河合幹雄「無関係の「道連れ」の衝撃」
オピニオン・フォーラム「拡大自殺」という言葉内
朝日新聞 2022年3月3日
- ・インタビュー河合幹雄「刑法犯 最悪一転減少に 認知件数 増減の裏に警察方針 県内10年連続減 少年非行減も原因」
記事内コメント 高知新聞 夕刊 2018年1月27日 1面
- ・河合幹雄「多様な大人との関わり少なく」
記事内コメント「慶大生集団強姦容疑で書類送検性知識学ぶ機会『重要』」内
朝日新聞 神奈川版 2017年8月10日 23面 インタビュー河合幹雄
記事内コメント「暴力団やめたのに…却下された生活保護」内
朝日新聞 静岡版 2017年7月22日 25面 朝日デジタル 2017年7月26日

- ・河合幹雄「死刑議論の焦点を抑えた優れた調査だ」
記事内コメント「『死刑は世論が支持』本当か 英在住の研究者、実証的な手法で調査」内
朝日新聞 2016 年 3 月 10 日 文化・文芸 35
記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ 7 日、人権擁護大会で採択」内
北國新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 7 面
記事内コメント「死刑廃止宣言 日弁連採択へ 7 日、終身刑など導入提案」内
神戸新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 8 面
記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ 犯罪被害者ら反発」内
高知新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 7 面
記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ 犯罪被害者が反発」内
岐阜新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 7 面
記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ 犯罪被害者ら強く反発」内
山陽新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 3 面
記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ 廃止国増や冤罪 背景」内
信濃毎日新聞 2016 年 10 月 5 日夕刊 7 面
- ・河合幹雄「死刑議論の焦点を抑えた優れた調査だ」
記事内コメント「『死刑は世論が支持』本当か 英在住の研究者、実証的な手法で調査」内
朝日新聞 2016 年 3 月 10 日 文化・文芸 35
- ・河合幹雄「元組員は就職先がないと非合法的な仕事に就く恐れがある」
記事内コメント「元組員の就職を支援 企業リスク軽減が課題」内
熊本日日新聞 2015 年 9 月 14 日
- ・記事内引用「Despire what the media says about juvenile crime, the kids are alright」内
河合幹雄「乱暴な少年法・成人年齢議論と改憲論」
The Japan Times 2015 年 7 月 18 日
- ・河合幹雄「袴田事件 影響か」
記事内コメント「死刑世論調査 容認が微減」内
朝日新聞 2015 年 1 月 25 日朝刊 社会 34
- ・河合幹雄「犯人検挙こそ重要」

- 記事内コメント「大阪府警 過少計上 汚名返上焦り 独自方式」内
産経新聞 2014年7月31日朝刊 社会 26
- ・河合幹雄「春秋」内にて引用
日本経済新聞 2012年11月1日
 - ・河合幹雄「取り調べの可視化 映像の副作用を危惧」
6面コラム「各自核論」北海道新聞 2011年7月23日夕刊
 - ・インタビュー河合幹雄「税務署が外国人ファイル 国籍や登録番号 個人情報収集」
記事内コメント 毎日新聞 2011年6月25日 文化4
 - ・河合幹雄「行き詰まる高齢受刑者処遇 出所後の支援体制強化を」
6面コラム「各自核論」北海道新聞 2011年3月5日夕刊
 - ・インタビュー河合幹雄「漫画表現の規制と社会規範 官の「拡大解釈」に警鐘」
記事内コメント 朝日新聞 2010年12月7日 夕刊 文化5
 - ・インタビュー河合幹雄「性行為描写ある漫画やアニメー東京都が条例改正案再提出 規制対象拡大、あいまい文言に懸念」
記事内コメント 毎日新聞 2010年12月2日 文化4
 - ・インタビュー河合幹雄「流出情報書籍出版差し止め 異例の迅速決定」
記事内コメント 毎日新聞 2010年11月30日 社会29
 - ・インタビュー河合幹雄「横浜2人殺害 裁判員初の死刑判決 異例の説諭「控訴勧める」永山基準を尊重」
記事内コメント 産経新聞 2010年11月17日
 - ・インタビュー河合幹雄「裁判員初の死刑判決 重い決断課題次々 控訴審更生次第、議論に幅」
記事内コメント 東京新聞 2010年11月17日 総合・核心3
 - ・河合幹雄「死刑是非の基本論点 開示と文化を出発点に」
6面コラム「各自核論」北海道新聞 2010年9月11日夕刊
 - ・河合幹雄「公訴時効廃止 議論と熟考欠いた国会」
6面コラム「各自核論」北海道新聞 2010年5月8日夕刊
 - ・インタビュー河合幹雄「死刑と無期の境 下 終身刑 絶望という死角」
記事内コメント 朝日新聞 2010年2月18日

- ・インタビュー河合幹雄「ニュース追跡 児童殺害予告で少年聴取いわき書き込み 薄い罪悪感「ネット炎上」の被害誘発 いたずら心犯罪に」
記事コメント 河北新報 2010 年 3 月 17 日
- ・インタビュー河合幹雄「更生に十分配慮」
岡山駅ホームで突き落とし殺人事件の少年の判決に対するコメント
毎日新聞 2009 年 6 月 18 日 岡山版
- ・インタビュー河合幹雄「国民の意識改革に有効」
「開廷裁判員 制度導入 識者に聞く」の三者のインタビューコラムのひとつ。
東京新聞 2009 年 5 月 26 日
- ・インタビュー河合幹雄「校区は最後の「砦」」
記事タイトル「「選択制」に一石、賛否「学校レベル偏ってしまう」「指定校、区割り理不尽」も 江東区の新方針」という記事とその解説記事「小学校を地域の「核」に」の横に付加された識者コメント記事
東京新聞 2008 年 9 月 26 日
- ・インタビュー河合幹雄「突然の凶行防止に壁 14 歳バスジャック 年齢チェックなど負担大きく 身分確認」
日本経済新聞 2008 年 7 月 19 日 名古屋版
- ・インタビュー河合幹雄「「体感治安」悪化の一途」
時時刻刻「「安全な国」崩した犯行 秋葉原無差別殺傷」のなかでインタビュー 8 行掲載。
朝日新聞 2008 年 6 月 10 日
- ・インタビュー河合幹雄「小さい罪から指導を」
福岡支局の記事「犯罪防ぐ街の姿は 福岡連続殺傷 専門家に聞く」の三人の論説のひとつとして掲載された。
朝日新聞 2008 年 4 月 20 日 14 版社会面
- ・インタビュー取材 河合幹雄「ニュースUP「交通事故不起訴4度 父の叫び届かぬ司法」」
岡山支局 石戸論記者による ニュースUP「交通事故不起訴4度 父の叫び届かぬ司法」にインタビューが16行掲載された。
毎日新聞 2008 年 1 月 30 日 岡山版
- ・インタビュー河合幹雄「「凶悪化」する少年犯罪をどう見る 犯罪数は激減、

稚拙化が問題」

全国商工新聞 2007 年 5 月 21 日

- ・インタビュー河合幹雄「長崎、町田両事件を考える 暴力団排除・・・」
共同通信より全国の地方紙に配信され 10 社以上で掲載されている
長崎新聞 2007 年 5 月 9 日他
- ・インタビュー河合幹雄「「凶悪化」より「稚拙化」」
時時刻刻「少年法改正案 低年齢路線に限界 小学 5 年生でも少年院」に
付加されたコラム記事
朝日新聞 2007 年 5 月 4 日
- ・河合幹雄「裁判員制が問う市民と情報」
オピニオン面 コラム 時流持論連載 3 朝日新聞 2007 年 3 月 5 日
- ・河合幹雄「犯罪の「稚拙化」に注目を」
オピニオン面 コラム 時流持論連載 2 朝日新聞 2007 年 2 月 12 日
- ・河合幹雄「「犯罪「減少」社会を診断する」」
オピニオン面 コラム 時流持論連載 1 朝日新聞 2007 年 1 月 22 日
- ・インタビュー取材 河合幹雄「教育の原点 基本法改正を検証する」4 回
「精神論では解決しない 拡散する「定説」」
教育基本法の検証する連載記事「教育の原点 基本法改正を検証する」5
回シリーズの 4 回目「精神論では解決しない 拡散する「定説」」にイン
タビュー 19 行が掲載。
東京新聞 2006 年 6 月 5 日
- ・インタビュー河合幹雄 文・写真：関 正喜「「犯罪減少と不安増大」のメ
カニズムは 背景に人間関係の希薄化」時代の肖像
北海道新聞 2006 年 11 月 20 日総合 2 面
- ・インタビュー河合幹雄「住民同士の連携を」
こども = 未来 特集：あなたは守れますか
日本経済新聞 2006 年 6 月 17 日夕刊 特集 5 面
- ・河合幹雄「治安は悪化していないが、なぜ「安全神話の崩壊」 統計上の
“トリック”？ 地域の事件処理能力低下も一因」
東京新聞 2004 年 10 月 13 日夕刊 9 頁
- ・河合幹雄「急増・凶悪イメージ先行 中国人犯罪の実態 冷静で的確な対

応を」

読売新聞 2003 年 11 月 19 日夕刊文化 15 頁

- ・インタビュー河合幹雄 文：塩倉裕「社会と犯罪 変容を生んだ匿名社会」

三者三論 12 歳の事件を考える

朝日新聞 2003 年 7 月 25 日オピニオン 15 頁

- ・河合幹雄「日本人の法意識に世代差」

読売新聞 2002 年 7 月 10 日夕刊文化 6 頁

- ・インタビュー河合幹雄 文：時田「新進気鋭 日本の犯罪少ないのはなぜ？」

読売新聞 2001 年 8 月 24 日夕刊文化 4 頁

- ・河合幹雄「続く県警不祥事 弱まる組織の内部統制」

共同通信より配布され、同文が「神奈川県警不祥事 法解決に依存する社会」等のタイトルで南日本新聞、愛媛新聞、四國新聞、埼玉新聞等に掲載された

神奈川新聞 1999 年 11 月 26 日文化 12 頁

【書評】

- ・河合幹雄「書評 郭薇著『法・情報・公共空間』」

『法社会学第 85 号 市民社会と法社会学』日本法社会学会編

2019 年 3 月 248～252 頁

- ・河合幹雄「書評『比較犯罪学研究序説』朴 元奎著」

『犯罪社会学研究』日本犯罪社会学会編

2018 年 10 月 156～159 頁

- ・河合幹雄「書評『刑事制度の周縁：刑事制度のあり方を探る』松原英世著」

『法社会学第 82 号』日本法社会学会編、有斐閣、297～301 頁 2016 年 3 月 22 日

- ・河合幹雄「書評『孤立する日本の死刑』ディビット・T・ジョンソン／田鎖麻衣子著」

『法社会学第 80 号 新しい所有権法の理論』日本法社会学会編、有斐閣、2014 年 3 月 20 日

- ・河合幹雄「書評『警備業の社会学「安全神話崩壊」の不安とリスクに対するコントロール』田中智仁著」

- 『犯罪社会学研究 35号』日本犯罪社会学会編 181～183頁 2010年10月1日
- ・河合幹雄「書評 血塗られた慈悲、笞打つ帝国—江戸から明治へ、刑罰はいかに権力を変えたのか? ダニエル・V・ボツマン著
北海道新聞 2010年1月17日
 - ・河合幹雄「Book Hunting「世界のヒズミ」はいつ始まったのか」
村上春樹著『1Q84』の書評『Foresight』2009年8月号、新潮社、55頁 2009年8月
 - ・河合幹雄「私のすすめる岩波新書」
『図書』2008年臨時増刊岩波新書創刊70年記念 22～23頁 2008年11月
 - ・河合幹雄「Book Review『刑法入門』山口 厚」
『論座』2008年9月号 327頁 2008年9月
 - ・河合幹雄「書評『なぜ君は絶望と闘えたのか』「事件の多面性を示し、考察促す」
京都新聞 2008年8月31日 2008年8月
 - ・河合幹雄「Book Review『死刑』森 達也」
『論座』2008年5月号 325頁 2008年5月
 - ・河合幹雄「Book Hunting 人生経験剥奪社会に残した「泣いてもええんよ」の言葉」
(河合隼雄著『泣き虫ハァちゃん』の書評)『Foresight』2008年2月号
新潮社 57頁 2008年2月
 - ・河合幹雄「私が選んだ3冊・2007年の収穫本」
『論座』2008年1月号 311頁 2008年1月
 - ・河合幹雄「大庭健『「責任」ってなに?』」
『論座』2006年4月 312頁
 - ・自著紹介、河合幹雄「安全神話崩壊のパラドックス 治安の法社会学」
『諸君』文藝春秋 2004年11月号「本の広場」に掲載 242頁
 - ・河合幹雄「六本佳平著『日本法文化の形成』」
『法社会学』2004年8月 209～213頁
 - ・河合幹雄「ハワード・ゼア著『修復的司法とは何か』」
『自由と正義』2004年3月号 114頁

【その他雑誌掲載】

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 19 回 (後編)
「大阪クリニック放火事件、犯人死亡で刑事裁判ナシの現実と、議論すべき被害者への“ケア”」
『Business Journal』 2022.03.31
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 19 回 (前編)
「大阪クリニック放火事件とガソリンという“爆発物”、そして道連れ自殺という悲惨な現実」
『Business Journal』 2022.03.30
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 18 回 (後編)
「日本は難民を拒否する冷たい国」なのか?…法社会学者が考えるウイシユマさん事件の意味」
『Business Journal』 2022.01.24
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 18 回 (前編)
「“外国人の人権は全て守られるべき”なのか?…法社会学者が問うウイシユマさん事件の真相」
『Business Journal』 2022.01.23
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 17 回
「赤木ファイルは「時限爆弾」…識者が語る、森友問題と安倍晋三、政官財“本当の癒着構造”」
『Business Journal』 2021.08.09
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」第 17 回
「河井克行元法相の判決を識者に聞く…「カネのパラマキ自体は悪くない」という公選法の解釈」
『Business Journal』 2021.06.18
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
「カジノ日本導入」に見え隠れする 20 兆円の巨大パチンコ産業…「外圧に負けて」のまやかし」
『Business Journal』 2019.12.19
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
「恩赦こそが理想の刑罰である」実は日々運用されている「個別恩赦」の

有効性と厳罰化

『Business Journal』 2019.10.30

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
「天皇即位時に罪人が減刑される悪しき制度」という誤解…恩赦という
“救済装置”を考える

『Business Journal』 2019.10.28

- ・河合幹雄「元 AV 女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第3回
.AV におけるエンタメ性とは…文筆家・森下くるみと考える「健全化され
たあとの AV 業界」

『Business Journal』 2019.05.26

- ・河合幹雄「元 AV 女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第2回
.AV 出演強要問題と新制度設計…文筆家・森下くるみが出演作品の販売停
止申請をしたワケ

『Business Journal』 2019.05.25

- ・河合幹雄「元 AV 女優・森下くるみ×法社会学者・河合幹雄対談」第1回
私の出演した AV は消せるのか？文筆家・森下くるみが語る「契約書も
なかった現役時代」

『Business Journal』 2019.05.24

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
ピエール瀧“コカイン逮捕”ネタ元は外国情報か…その裏に“韓国ルー
ト”の存在も」

『Business Journal』 2019.03.28

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
野田市小4虐待死、「母も DV 被害者ゆえに逮捕は不要」は誤り…法で裁
かれるべき」

『Business Journal』 2019.03.19

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」
野田市小4虐待死、教育委員会のあり得ない大失態…悪質クレームには躊
躇なく弁護士を」

『Business Journal』 2019.03.07

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法“痴”国家ニッポン」

“強姦冤罪事件” 国家賠償請求を棄却、なぜ「公務員のミス」は許されてしまうのか？」

『Business Journal』 2019.02.27

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法 “痴” 国家ニッポン」
強姦冤罪事件を生み出した“プロ失格” の検察と裁判所が“14 歳の少女”
のウソを見抜けず」

『Business Journal』 2019.02.15

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の「法 “痴” 国家ニッポン」
竹下通り暴走は稚拙な“テロもどき” 欧米式テロ対策導入議論の無意味さ」
- 『Business Journal』 2019.02.07

- ・河合幹雄「ホリエモン事件と同じ構造!? カルロス・ゴーン事件に見る、独裁者を“利用” し、そしてほうむり去る我がニッポンの“伝統 ”」

『Wezzy』 2019.01.05

- ・河合幹雄「カルロス・ゴーン容疑者を勾留する「東京拘置所」は本当に“地獄” か？ 日仏刑事司法の比較から考える日本“人質司法”の問題点」

『Wezzy』 2018.12.21

- ・河合幹雄「戦前はナチス政権にも協力!? “国策企業” ルノーの歴史から見るカルロス・ゴーンの逮捕」

『Wezzy』 2018.12.14

- ・河合幹雄「“逃走犯” を生んだ大阪・富田林署、1989 年建造の老朽化とお粗末なルール運用」

『Wezzy』 2018.11.23

- ・河合幹雄「大阪・富田林署“逃走事件” 容疑者の「能力の高さ」の秘密」
- 『Wezzy』 2018.11.19

- ・河合幹雄「[「地下鉄サリン事件」へと、オウム真理教を変質させた“何か”の存在」

『Wezzy』 2018.11.14

- ・河合幹雄「オウム死刑囚“大量執行” が意味するものと被害者遺族の高齢化」
- 『Wezzy』 2018.11.08

- ・河合幹雄「[「兇相だけの責任に帰していいのか?」 “目黒虐待死事件” 専門委報告を河合幹雄・桐蔭横浜大学教授に聞く」

『Wezzy』 2018.10.19

- ・河合幹雄「法社会学者に聞く、TOKIO 山口達也の“犯罪分析”」
『Wezzy』 2018年5月7日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (69) 広島脱走潜伏事件に見る“解放刑務所”の奇跡的大成功」
『サイゾー』 2018年7月号 104～105頁 2018年6月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (68) 公文書改ざんにおける“罪状”と法務省が抱えた“積年の恨み”」
『サイゾー』 2018年6月号 104～105頁 2018年5月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (67) スパイによる本当の諜報活動と日本社会による“包摂的”防諜効果」
『サイゾー』 2018年5月号 120～121頁 2018年4月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (66) “男女平等先進国”アメリカの幻影と「# MeToo」問題に見る「権力構造」」
『サイゾー』 2018年4月号 104～105頁 2018年3月19日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (65) 無修正 AV はなぜ違法なのか？ モザイクなる“参入障壁”と合法 AV の謎」
『サイゾー』 2018年3月号 104～105頁 2018年2月19日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (64) 出演強要問題の裏の AV 女優たちの声——『消してほしい』という切なる願い」
『サイゾー』 2018年2月号 120～121頁 2018年1月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (63) “凡庸なる殺人者” 白石はなぜかくも異常な連続殺人を犯したか？」
『サイゾー』 2018年1月号 104～105頁 2017年12月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (62) 山尾志桜里 “不倫当選”に見る『不貞行為と姦通罪』の日本政治史」
『サイゾー』 2017年12月号 104～105頁 2017年11月17日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (61) 電通過労自殺事件から考える『労働災害』適用範囲拡大の歴史」
『サイゾー』 2017年11月号 120～121頁 2017年10月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (60) レイプ騒動も

- み消し疑惑に見るクソ忖度を招いた“安倍人事”の罪」
『サイゾー』2017年10月号 104～105頁 2017年9月19日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (59) ピストルズが歌ったIRAから考える世界はいま本当に『テロ時代』か？」
『サイゾー』2017年9月号 104～105頁 2017年8月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (58) 国家とヤクザ者が交錯する！金塊事件に見る『警備会社』の歴史」
『サイゾー』2017年8月号 104～105頁 2017年7月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (57) 共謀罪に国民監視の意図はなし!? 警察・検察の皮肉なる“真の目的”」
『サイゾー』2017年7月号 104～105頁 2017年6月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (56) 三権分立システムから考えるトランプ大統領の隠された“弱さ”」
『サイゾー』2017年6月号 106～107頁 2017年5月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (55) 文科省の天下りスキャンダルに見る有能官僚を“飼い殺す”日本的システム」
『サイゾー』2017年5月号 106～107頁 2017年4月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (54) 将棋界激震の不正疑惑に見る“もみ消し”と第三者委員会の共通点」
『サイゾー』2017年4月号 122～123頁 2017年3月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (53) 依存症批判も暴力団批判も的外れ!? カジノ法案がダメな本当の理由」
『サイゾー』2017年3月号 122～123頁 2017年2月18日
 - ・インタビュー河合幹雄「【社会課題の解決には、まず正しい情報から。「みらい」にはその発信を期待します。」
『ウェブ機関誌「みらい」』2017年2月15日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (52) 「暴走する高齢ドライバー激増！」誤ったイメージ醸成の理由とは？」
『サイゾー』2017年2月号 104～105頁 2017年1月18日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (51) いじめ加害者を「殺人犯」にできない刑法の限界と、政府が探る“第3の道”」

- 『サイゾー』2017年1月号 98～99頁 2016年12月19日
- ・河合幹雄 「「法」では少年犯罪は減らせない」
『Yahoo! ニュース』 「「少年法」 厳罰化に効果はあるか」
記事内 2016年12月12日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (50) フクイチ事故の刑事責任が不問に付される巧妙な“カラクリ”」
『サイゾー』2016年12月号 106～107頁 2016年11月18日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (49) 和解すれば起訴はなし!? 民事と刑事のビミョーな関係」
『サイゾー』2016年11月号 106～107頁 2016年10月18日
 - ・コメント 河合幹雄 「異常性愛者は“更生”できない!? 性犯罪と法のスリリングな関係」
『サイゾー』2016年11月号 50～53頁 2016年10月18日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (48) 相模原大量殺人事件に見る関係各所の対応の“見事さ”」
『サイゾー』2016年10月号 106～107頁 2016年9月17日
 - ・インタビュー 河合幹雄 「【埼玉河川敷事件】改めて注目集める少年事件しかし、実は件数が激減している」
『BuzzFeed News』 インタビュアー：石戸諭 2016年8月26日
 - ・コメント 河合幹雄 「相模原「障害者大量殺戮」の悲劇」
『サンデー毎日』2016年8月14-21日夏季合併号 20頁 2016年8月21日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (47) 公職選挙法の理念に隠された体制側の思惑、そして欺瞞」
『サイゾー』2016年9月号 98～99頁 2016年8月18日
 - ・インタビュー 河合幹雄 「【相模原事件】「戦後最大級の大量殺人」専門家が語る特殊性」
『BuzzFeed News』 インタビュアー：石戸諭 2016年7月26日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (46) 横須賀刑務所の処遇に見る繰り返される米軍犯罪の実態」
『サイゾー』2016年8月号 114～115頁 2016年7月18日
 - ・河合幹雄 「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (45) 世界的麻薬ビ

- ジネスに潜む“共産化阻止”というアメリカの野望」
『サイゾー』2016 年 7 月号 98～99 頁 2016 年 6 月 18 日
- ・インタビュー河合幹雄「人類が初めて遭遇する「寝たきり 100 歳社会」の悪夢 後編」
『週刊新潮』6 月 9 日号 48 頁 2016 年 6 月 2 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (44) 法の恣意性とドラッグ それは、なぜ“悪”なのか？」
『サイゾー』2016 年 6 月号 104～105 頁 2016 年 5 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (43) 野球賭博はなぜ“悪”か？ その構造的要因を探る」
『サイゾー』2016 年 5 月号 90～91 頁 2016 年 4 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (42) “文春砲” 甘利事件から読み解く“フィクサー”不在と日本社会の変容」
『サイゾー』2016 年 4 月号 90～91 頁 2016 年 3 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (41) 警察が“カラスニコフ”を導入!? その小さくも大きな変化とは」
『サイゾー』2016 年 3 月号 90～91 頁 2016 年 2 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (40) データ偽装への非難轟々に見る“社会の不可視化”という問題」
『サイゾー』2016 年 2 月号 98～99 頁 2016 年 1 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (39) 司法試験の不人気は、国家にとって益するという“逆説”」
『サイゾー』2016 年 1 月号 106～107 頁 2015 年 12 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (38) 「エロ教授の漏洩事件」に見る司法試験の難しさの“本質”」
『サイゾー』2015 年 12 月号 88～89 頁 2015 年 11 月 18 日
 - ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (37) 元“酒鬼薔薇聖斗”から考える「更生」とはなんなのか？」
『サイゾー』2015 年 11 月号 98～99 頁 2015 年 10 月 19 日
 - ・インタビュー河合幹雄「ニッポン経済の盛衰から見る山口組 100 年の歴史と“分裂”」

- 『サイゾー』2015年11月号 30頁 2015年10月19日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (36) 現場の刑務官が思う死刑の“軽さ”」
- 『サイゾー』2015年10月号 98～99頁 2015年9月18日
- ・河合幹雄「大阪・中1殺害 犯人像／再犯は防げるか」
- 『サンデー毎日 9月6日増大号』2015年8月号 154頁 2015年8月25日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (35) 「日本国民は死刑賛成」に潜む“世論”のマジック
- 『サイゾー』2015年9月号 98～99頁 2015年8月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (34) ドローンの危険性から考える「社会はなぜ“安全”なのか？」
- 『サイゾー』2015年8月号 112～113頁 2015年7月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (33) 「次に死刑に処される者」を決めるのは“誰”なのか？」
- 『サイゾー』2015年7月号 104～105頁 2015年6月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (32) 「怒れる犯罪被害者」の実態との隔離と“許し”」
- 『サイゾー』2015年6月号 100～101頁 2015年5月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (31) 知られざる少年犯罪の実態と「年齢引き下げ論」の誤り」
- 『サイゾー』2015年5月号 118～119頁 2015年4月18日
- ・河合幹雄「少年法で非行少年の九割が更生する 18歳は「成人」か？」
- 『中央公論』2015年5月号 中央公論新社 122～127頁 2015年4月10日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (30) 殺人事件の被害者とはそもそも“誰”なのか？」
- 『サイゾー』2015年4月号 118～119頁 2015年3月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン特別編 “テロ”は欧米社会の発明品である」
- 『サイゾー』2015年3月号 76～78頁 2015年2月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (29) 談合の“新しさ”から垣間見える犯罪の普遍性と特殊性」

- 『サイゾー』2015 年 2 月号 104～105 頁 2015 年 1 月 19 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (28) 京都毒婦事件発覚の裏にある警察 “死因特定運動”」
- 『サイゾー』2015 年 1 月号 110～111 頁 2015 年 1 月 1 日
- ・河合幹雄「「子供の送り迎え不要」は世界の例外 欧米が太刀打ちできない日本の安全。その秘密は「更生」にあった」
- 『文藝春秋』2015 年 冬号 40～45 頁 2015 年 1 月 1 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (27) 全国を行脚するプロの生業 “窃盗犯” 1 万人の実像」
- 『サイゾー』2014 年 12 月号 100～101 頁 2014 年 11 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (26) 裁判員制度導入のウラにグローバル化と治安悪化が!？」
- 『サイゾー』2014 年 11 月号 100～101 頁 2014 年 10 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (25) 一高 1 女子 “首切り” 事件の普遍性と更生可能性」
- 『サイゾー』2014 年 10 月号 94～95 頁 2014 年 9 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (24) 裁判員制度導入で “得” をしたのは誰か？」
- 『サイゾー』2014 年 9 月号 102～103 頁 2014 年 8 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (23) “冤罪” とはなんなのか？ 物証至上主義に潜むワナ」
- 『サイゾー』2014 年 8 月号 126～127 頁 2014 年 7 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (22) ハードなれども高級取り 警察という組織のカラクリ」
- 『サイゾー』2014 年 7 月号 116～117 頁 2014 年 6 月 18 日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (21) 実は東大並みの “狭き門” 「受刑者」とはいったい誰なのか？」
- 『サイゾー』2014 年 6 月号 114～115 頁 2014 年 5 月 18 日
- ・インタビュー河合幹雄「メディアやドラマで描かれる殺人事件に潜む “ウソっぽさ” の理由」
- 『サイゾー』2014 年 5 月号 144～145 頁 2014 年 4 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (20) 実刑にはならないチノパンと道交法に見る“運転主体”という問題」
『サイゾー』2014年5月号 116～117頁 2014年4月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (19) コスプレ犯農薬混入事件に見る日本社会における「放火」の持つ意味」
『サイゾー』2014年4月号 100～101頁 2014年3月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (18) 連発する行方不明騒動に見る女児誘拐犯の“ある法則”」
『サイゾー』2014年3月号 106～107頁 2014年2月18日
- ・対談：河合幹雄，佐伯仁志，金光旭，太田達也，坂野剛崇，川出敏裕「少年非行」
『論究ジュリスト』2014年冬号 有斐閣 155～172頁 2014年2月10日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (17) 取り調べを可視化できない日本だけの“本当の理由”」
『サイゾー』2014年2月号 120～121頁 2014年1月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (16) 特定秘密保護法の裏にある情報管理の“本当の”ヤバさ」
『サイゾー』2014年1月号 118～119頁 2013年12月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (15) 広島LINE殺人事件に見る少年犯罪の“不気味な”少なさ」
『サイゾー』2013年12月号 114～115頁 2013年11月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (14) 統計データに見る「振り込め詐欺激増」の真偽」
『サイゾー』2013年11月号 114～115頁 2013年10月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (13) 山口“限界集落殺人”に見る「典型的な日本の殺人」」
『サイゾー』2013年10月号 116～117頁 2013年9月18日
- ・河合幹雄 (他3名) 座談会「犯罪現象と住民意識」～犯罪不安感はどこから来るのか～
『犯罪と非・s』No.176 18～65頁 2013年9月
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (12) ストーカー犯

罪の背景に見る安易な警察叩きの誤り」

『サイゾー』2013 年 9 月号 112～113 頁 2013 年 8 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (11) “DJ ポリス” 賛美に見る治安維持の本当の難しさ」

『サイゾー』2013 年 8 月号 116～117 頁 2013 年 7 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (10) オウム死刑囚の証人尋問に見る日本的な“司法取引”の成立要件」

『サイゾー』2013 年 7 月号 114 頁～115 頁 2013 年 6 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (9) 性犯罪における、“変態度”と実際の罪状との著しい乖離」

『サイゾー』2013 年 6 月号 130 頁～131 頁 2013 年 5 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (8) 弁護士増員計画の頓挫と総会屋排斥との“共通点”」

『サイゾー』2013 年 5 月号 134 頁～135 頁 2013 年 4 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (7) 遠隔操作ウイルス事件に見る対サイバー人材の不足と偏重」

『サイゾー』2013 年 4 月号 116 頁～117 頁 2013 年 3 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (6) 児ポ法の悪法たるゆえんを河西智美「手ブラ騒動」に見る」

『サイゾー』2013 年 3 月号 116 頁～117 頁 2013 年 2 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (5) 尼崎事件に見る普遍性と現代性」

『サイゾー』2013 年 2 月号 104 頁～105 頁 2013 年 1 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (4) 官僚機構にはびこる血縁・姻戚ネットワークの謎」

『サイゾー』2013 年 01 月号 116 頁～117 頁 2012 年 12 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (3) 警察・検察を押さえてこそ政権は真に奪取される」

『サイゾー』2012 年 12 月号 118 頁～119 頁 2012 年 11 月 18 日

- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (2) “役に立たない”監視カメラをそれでも警察が推進したいワケ」

- 『サイゾー』2012年11月号 120頁～121頁 2012年10月18日
- ・河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (1) 反原発デモと、暴力措置を失った警察機構の“悲劇”」
『サイゾー』2012年10月号 118頁～119頁 2012年9月18日
 - ・河合幹雄「光市事件。少年への死刑判決はなぜ？」
『まなぶ』NO.658 186頁～187頁 2012年4月1日
 - ・河合幹雄「人を育てる人」河合隼雄の包容力
『週刊現代』第54巻 第9号 186頁～187頁 2012年2月27日
 - ・河合幹雄「危ない暴力団排除条例 対象はヤクザではなく一般人」
『週刊 金曜日』871号 56頁～57頁 2011年11月11日
 - ・インタビュー河合幹雄「ヤクザの子供は芸能界や球界に入れたい？一人権派が問題視 暴力団排除条例」
『サンデー毎日』2011年10.9増大号 2011年10月09日
 - ・インタビュー河合幹雄 (再録)「死刑と無期と終身刑、コストを眺めてみるとどーなる？ `オトク` な刑罰はどっちなの？禁断の`死刑の経済学`入門」
『別冊サイゾー vol.2』 146～155頁 2011年9月1日
 - ・インタビュー 河合幹雄「法社会学から見たネットでの青少年の犯罪について」
『もっとグッドタイムス』インタビューア：鎌田真樹子 2011年8月24日
 - ・インタビュー河合幹雄「東電OL事件 DNA再鑑定 その裏にキケンな思惑」
『サイゾー』2011年9月号 2011年8月18日
 - ・インタビュー河合幹雄「警察のネット利権を拡大せよ!? 都条例改正の真の狙いとは」
『サイゾー』2011年3月号 2011年2月18日
 - ・インタビュー河合幹雄「30代は「逮捕」の危険年齢 果して30代は凶暴化しているのか？」
『SPA! 週刊SPA!』2010年9月14日号 47頁 2010年9月14日
 - ・インタビュー引用 河合幹雄「石原都知事 マンガ規制条例と矛盾？ポルノ礼賛過去を一笑」
『FLASH』2011年1月18・25日号 106頁 2011年1月18日
 - ・インタビュー河合幹雄「急増するオナナの強欲殺人」

- 『女性自身』2010 年 12 月 28 日号 130 頁～131 頁 2010 年 12 月 28 日
- ・インタビュー 河合幹雄「現代流マネジメント理論で見る“最強ヤクザ”
山口組、強さの秘密」特集「アブない<裏社会>学」
『サイゾー』2010 年 6 月号 53 頁 2010 年 5 月 18 日
 - ・インタビュー 河合幹雄「芸能スキャンダルの裏に潜む“学術的”現代ニ
ッポン犯罪事情」特集「スキャンダル&ゴシップ白書」
『サイゾー』2010 年 4 月号 第 10 巻第 4 号 80-83 頁 2010 年 3 月 18 日
 - ・インタビュー引用 河合幹雄「規制強化真っ最中！篠山紀信も事前に勉強
しておけば…。今や露出モノ撮影は不可能!? A V 屋が語る“屋外ヌード
撮影道”」特集「スキャンダル&ゴシップ白書」
『サイゾー』2010 年 4 月号 第 10 巻第 4 号 68-69 頁 2010 年 3 月 18 日
 - ・河合幹雄「刊行に寄せて」
『「薬物犯罪の現状と課題」—地域社会における他機関連携アプローチの取
り組み—』
日本犯罪社会学会 2009 年度 第 6 回公開シンポジウム成果報告書
財) 社会安全研究財団助成事業 2～3 頁 2010 年 3 月 15 日
 - ・インタビュー 河合幹雄「特別インタビュー 気鋭の法社会学者・河合幹
雄、「津山三十人殺し」と 21 世紀の殺人を語る」
取材・構成 マーダー・ウォッチャー編集部
『実録 殺人事件がわかる本』2010 Spring、洋泉社 M O O K、72-81 頁
2010 年 3 月 8 日
 - ・インタビュー河合幹雄「「変態が性犯罪を犯す」のではない性犯罪統計デ
ータを正しく読み解け」
『サイゾー』2009 年 11 月号 第 9 巻第 18 号 104-105 頁 2009 年 10 月 18 日
 - ・インタビュー 河合幹雄「日本に終身刑を導入すれば超高コスト刑務所が
誕生する!! —法社会学者・河合幹雄氏に聞く「日本の刑罰のお値段」と
は?」特集「死刑の経済学を直視せよ!」
『サイゾー』2009 年 6 月号 66～67 頁 2009 年 6 月
 - ・インタビュー河合幹雄、「実施迫る! 裁判員制度 賛成派: 国民が主体的
に行動する社会に」
上智新聞 3 面 2009 年 5 月 1 日

- ・インタビュー 河合幹雄「国民自らが「社会」をつくる意識を」
特集「裁判員制度のジョーシキ」の中のインタビューとコラム
『Liberty』2009年5月号 Number170 55～57頁 2009年5月
- ・対談：河合幹雄，守屋明，垣内秀介，前田智彦，永石一郎，須藤典明，加藤
新太郎「当事者は民事裁判に何を求めるのか？ 訴訟行動調査と実務の対
話PART I（下）」
『判例タイムス』2009年5月1日号、第60巻第10号 通巻1290号 24・
45頁 2009年5月
- ・対談：河合幹雄，守屋明，垣内秀介，前田智彦，永石一郎，須藤典明，加藤
新太郎「当事者は民事裁判に何を求めるのか？ 訴訟行動調査と実務の対
話PART I（上）」
『判例タイムス』2009年4月15日号、第60巻第9号 通巻1289号 5～
27頁 2009年4月
- ・インタビュー河合幹雄「「障害者の犯罪」は増加していない 日本の犯罪
状況の全体像を示せ」特集「“知的障害者”“精神障害者”の犯罪 その事
件報道はいかにあるべきか？」松島 拡 西川萌子 文・構成のなかのイ
ンタビュー記事
『サイゾー』2009年3月号 97～98頁 2009年3月
- ・座談会：河合幹雄、松本時夫、吉田宣之
「座談会「裁判員制度の課題」」
『桐蔭論叢』第19号2008年12月 桐蔭横浜大学 5～23頁 2008年12月
- ・座談会：河合幹雄、井上達夫、松原芳博 「死刑論議の前提」
『世界』2008年9月号 no.782 岩波書店 141-153頁 2008年9月
- ・インタビュー 河合幹雄「真実がわからない“取り残され感”が格段に良
くなった社会で不安を生む」
『人間会議』2007年冬号 宣伝会議 90～95頁 2007年12月
- ・インタビュー 河合幹雄「治安悪化というウソの先にある「犯罪の質的変
化」の実態とは？」
『サイゾー』2007年9月号 第7巻第11号 141-143頁 2007年8月18日
- ・「地域社会の健全性が、安心と未来の治安をもたらす。」
コラム「今月の論点」『のんびる』2007年6月号、パルシステム生活協同

組合連合会 5 頁 2007 年 5 月

- ・座談会 河合幹雄、北島敬介、北島元始、瀬川 晃、津富 宏、太田幸充、
田中奈々子、澤田健一、林 和治、古田修一、名執雅子、小林万洋「会長
を囲む座談会 矯正は社会からの期待にどうこたえるか」
『刑政』通巻 1375 号平成 19 年 1 月号 矯正協会 56～98 頁 2007 年 1 月
- ・インタビュー 河合幹雄 「治安悪化よりも注視したい地域共同体の崩壊」
『商工につぼん』日本商工振興会 2006 年 12 月号 No.715 号 6～9 頁
- ・対談 河合幹雄、小出 治、五十嵐太郎「検証！安全・安心のまちづくり」
「防犯編」日本の治安とまちづくり」
『City life 特集「安全・安心のまちづくり」を考える』第一住宅建設協
会 2006 年 autumn no.81 号 2～10 頁
- ・インタビュー 河合幹雄「つのる不安の原因をさぐる」
『母の友』福音館書店 2006 年 6 月号 637 号 37～43 頁
- ・インタビュー 河合幹雄「なぜ若者たちがだまされるのか？」
『たしかな目』237 番平成 18 年 4 月号 独立行政法人国民生活センター
198～199 頁 2006 年
- ・インタビュー記事 河合幹雄
「監視カメラは犯罪を防がない！？ 気鋭の法社会学者が語る、監視カメ
ラの有効性、そして、“監視社会”のあるべき姿とは」
『サイゾー』2005 年 12 月号、第 5 巻第 19 号通巻 92 号 108～109 頁
2005 年 12 月
- ・座談会 河合幹雄、廣井亮一、生島 浩、村尾泰弘「座談会 現代非行を
読み解く」
『現代のエスプリ 461 非行臨床の理論と実際』5～28 頁、至文堂、2005
年 12 月
- ・河合幹雄「ゲーム通による検討が必要」
『ゲーム批評 特集「ゲーム有害図書類指定」は冤罪か!？」Vol.65
2005 年 11 月号 29 頁
株式会社マイクロマガジン社 2005 年
- ・河合幹雄「安全地帯はもうない。ニュータウン、駐車場など匿名性の高い
場所で無秩序に犯罪が起こる」 電通総研「百年感覚」プロジェクト

- 『百年感覚 1905/1945/2025』2005年1月、電通、52-55頁
- ・対談 河合幹雄、重松 清、土井隆義、宮崎哲弥「日本社会はどこまで危険になったか」
『諸君』2005年1月号 文藝春秋 74～86頁
 - ・座談会：河合幹雄、杉田 敦、土井隆義「犯罪不安社会の実相」
『世界 特集：犯罪不安社会ニッポン』2004年7月号 岩波書店 153～162頁
 - ・インタビュー 河合幹雄、文：松尾 學「"オレオレ詐欺"から家族を守るには」
『毎日が発見』SSコミュニケーションズ 2004年5月号 78～81頁
 - ・河合幹雄「日本社会の新たな合意形成を求めて インターネットは日本の政治を変えるか」
『中央公論』1999年7月号 中央公論新社 206～213頁
 - ・河合幹雄、太田勝造 共同執筆
「契約意識調査余滴 {続(1)} タイ共同調査雑感」
『書斎の窓』No.471、有斐閣 1998 1・2月号 44-51頁
- 【WEB RONZA】**
- ・旧統一教会に宗教法人の資格があるのか吟味を (2022/8/19)
 - ・成年年齢引き下げに際し、AV出演年齢の自主規制をする意義とジレンマ
第三者機関のAV人権倫理機構は、少女を救うルールを業界側に通達している (2022/03/30)
 - ・工藤会、解散指示で「悔悛の状」示すか
暴力団首領への死刑判決を死刑制度の存在意義から考える (2021/09/19)
 - ・アメリカの黒人を警察官から守るには黒人を警察官にすればよい 正しい解決策を無視したりペラルの運動への疑問 (2020/07/06)
 - ・性犯罪無罪判決、本当の問題点は何か 司法関係者の犯罪者と被害者に対する洞察力の欠如こそ問題だ (2019/05/15)
 - ・ゴーン被告の長期勾留と世界のスタンダード 逮捕から3カ月、日本は取り調べが厳しいが身柄拘束者数は少ない (2019/02/19)
 - ・ゴーン氏の行為は犯罪的、検察は正義感を重視か「多くの社員を切り捨てた社長が年収何十億円」は許されるか 自白偏重のフランス司法 (2018/12/12)

- ・報道など二つの点で特異だったオウム 7 人死刑執行——現代社会に生まれる宗教に対応しかねている司法 (2018/07/13)
- ・疑わしきは被告人の有利に 最高裁は再審無罪を——袴田巖さんの再審を取り消した東京高裁 何十年もたってからの新証拠はほぼ不可能 (2018/07/11)
- ・AV 業界とはいかなる業界なのか (下) ——登録された AV 女優数は 2000 人足らず、年間で 24000 タイトル (2018/03/29)
- ・AV 業界とはいかなる業界なのか (上) ——AV を隠した撮影などを禁じ健全化をめざす業界自主ルールが 4 月から実施 (2018/03/28)
- ・座間殺人事件で考える「SNS との付き合い方」——未成年の被害者が携帯電話にフィルタリングをしていれば犠牲になっていなかった (2017/12/31)
- ・大阪地検の森友学園事件の追及はどこまで? ——しゃべりすぎるキーマンの逮捕と時間稼ぎか、捜査に期待するより選挙での審判が本筋 (2017/10/05)
- ・共謀罪から見えてこない具体的な想定犯罪——司法取引、通信傍受とセットで捜査能力の向上を狙い導入か (2017/05/30)
- ・いじめと刑事事件の間にある距離とは——福島からの避難児の被害者の苦しみを理解しなかった横浜市教委 (2017/03/14)
- ・高齢者の万引きは本当に増えているのか (下) ——この 10 年間は微減傾向なのに、大きく報道された結果、増加している印象を与えている (2016/12/22)
- ・高齢者の万引きは本当に増えているのか (上) ——人暮らしの老人の犯行では駆けつける家族なく検挙に、見えにくい発生件数の実態 (2016/12/14)
- ・相模原障害者施設殺傷事件をどう受け止めるべきか——金閣寺放火事件のような妄想による犯行か、騒がないという日本の伝統的な犯罪対策 (2016/8/19)
- ・検察に期待せず検察審査会が甘利前大臣を起訴せよ——検察の不起訴理由は理解不能、裁判官が本当の判断をすべきだ (2016/7/8)
- ・予算獲得ルールと連動する刑法犯認知件数——犯罪被害者実態調査の件数は 20 年間横ばい、犯罪を減らした成果という見せかけ (2016/2/10)
- ・調書頼みの終焉を示した東住吉事件の再審決定——突っ走った警察、チェックできなかった検察、最大の責任は自白調書重視の裁判所 (2015/11/03)
- ・大半は更生する少年犯罪者、少年 A は失敗例か? ——少年 A は完治していないものの再犯しない適応力つけた一応の成功例、理想は改心だが…

(2015/10/28)

- ・ 起訴相当を出せることが刑事司法改革のポイント——検察審査会の存在意義と原発事故の責任、有罪率99.9%は真犯人取り逃がしを意味(2015/08/13)
- ・ 乱暴な少年法・成人年齢議論と改憲論 (2015/06/02)
- ・ 犯罪学から見たパリの新聞社襲撃テロ——イスラム排外主義がテロリストを生むのではなく、移民政策の不十分さが犯罪者を生む (2015/1/24)
- ・ ビジョンなき司法取引の導入 (2014/10/10)
- ・ 死刑囚1割無実なら執行一旦停止は7割——治安の世論調査 (2014/07/30)
- ・ 悠長すぎる法制審議会、検察の外部コントロールの検討を (2014/05/17)
- ・ 犯罪急減の正体 犯罪しない若者たち (2014/01/28)
- ・ 最高裁は憲法問題で存在感を示せ (2013/09/20)
- ・ 原発産業を取り巻く構造に司法のメスを (2013/08/09)
- ・ 若い法曹を合格させてから鍛えろ (2013/07/02)
- ・ PC 遠隔操作、裁判官の能力は十分か (2013/04/19)
- ・ 横浜刑務所不祥事の原因と対策 (2013/01/04)
- ・ 誤認逮捕・起訴、明日は我が身に (2012/11/01)
- ・ 検察の自浄力には期待できない (2012/7/09)
- ・ 反省した裁判官と、正義感なき検察 (2012/06/21)
- ・ 名張毒ブドウ酒事件とO J シンプソン事件 (2012/06/01)
- ・ 警察現場のやりがいを取り戻せ (2012/04/16)
- ・ 少年死刑確定：誰が反省不十分なのか (2012/02/23)
- ・ 死刑制度を残しつつ執行しないのが理想だ (2011/12/29)
- ・ 裁判結審はオウム事件の最終解決か？ (2011/11/25)
- ・ 予想外の第三者委員会の結論に慌てた九電 (2011/10/25)
- ・ バランス感覚と新しい秩序 (2011/09/27)

【研究会発表】

- ・ 「死刑の象徴化と公判重視～犯罪実態と世論調査を踏まえた死刑論」
東京法哲学研究会6月例会
於 東京大学法4号館8階 大講義室 2015年6月20日
- ・ 「終身刑について—無期刑囚のデータに基づく議論と社会秩序の象徴とし

- ての刑罰論」第 98 回東京犯罪社会学研究会
於 国学院大学若木タワー 5 階 509 号教室 2010 年 2 月 17 日
- ・「底辺社会とマイノリティーの研究」
一橋大学地域社会研究会
於 一橋大学マーキュリータワー 3406 室 2009 年 10 月 28 日
 - ・「ネット・セキュリティーにおける個人特定の問題」
G-SEC 中間報告会 於 慶應義塾大学三田キャンパス G S E C 館 6 F
 - ・「刑事事件取調べ状況の社会学と心理学—可視化の是非を問う」
第二回立命館大学「法と心理研究会」於 立命館大学 2006 年 9 月 30 日
 - ・「刑事事件と匿名性」情報証拠論研究会 研究会発表
於 情報セキュリティ大学院大学 2005 年 7 月 8 日学
 - ・「安全神話の崩壊と政策変更」政策システムと専門知研究会主催
於 日本学術振興会麹町事務所 2005 年 3 月 18 日
 - ・「安全神話崩壊のパラドックス 治安の法社会学」
日本法社会学会関東支部 於 早稲田大学法学部 2005 年 3 月 11 日
 - ・「フランス社会と司法の動向——ガラポンを手がかりに」
日本法社会学会関東研究支部定例会
於 東京大学法学部 2003 年 2 月 11 日
 - ・「社会統制と個人主義——悪質商法を素材として——」
日本法社会学会関西研究支部第 4 回例会
於 京都大学法学部 1997 年 4 月 5 日部
 - ・「現代社会における社会統制と法——悪質商法（マルチ）を手がかりとして」桐蔭学園横浜大学法学部 研究会 1996 年 5 月 1 日
 - ・「組織体（企業）の悪行の帰責——様々なケースについての日米比較意識調査」合意形成研究会 第 36 回
於 電通総研 1996 年 1 月 18 日
 - ・「詐欺まがいの商法と合意」合意形成研究会 第 31 回
於 電通総研 1995 年 6 月 22 日
 - ・「社会統制と個人主義——フランスと日本の比較——」
東京法哲学研究会
於 明治大学駿河台校舎 1993 年 12 月 18 日

【付記】

ここに掲載した経歴と業績については、河合幹雄先生ご自身が作成された「河合幹雄 OFFICIAL SITE」に掲載された内容を、ほぼそのまま掲載させていただき、若干の加筆と訂正を行ったものである。加筆と訂正に際しては、河合貴美様に経歴部分の不明点を調べていただくなど御助力を賜った。なお、業績リストの通し番号については編集担当者が法学分野での慣例に従って付したものである。(箭野章五郎・浅岡慶太)

(かわい・みきお)



2021年9月 うかい亭にて撮影